

「愛」「幸せ」「争い」「憎しみ」その他すべての感情がオペラにはつまっている。

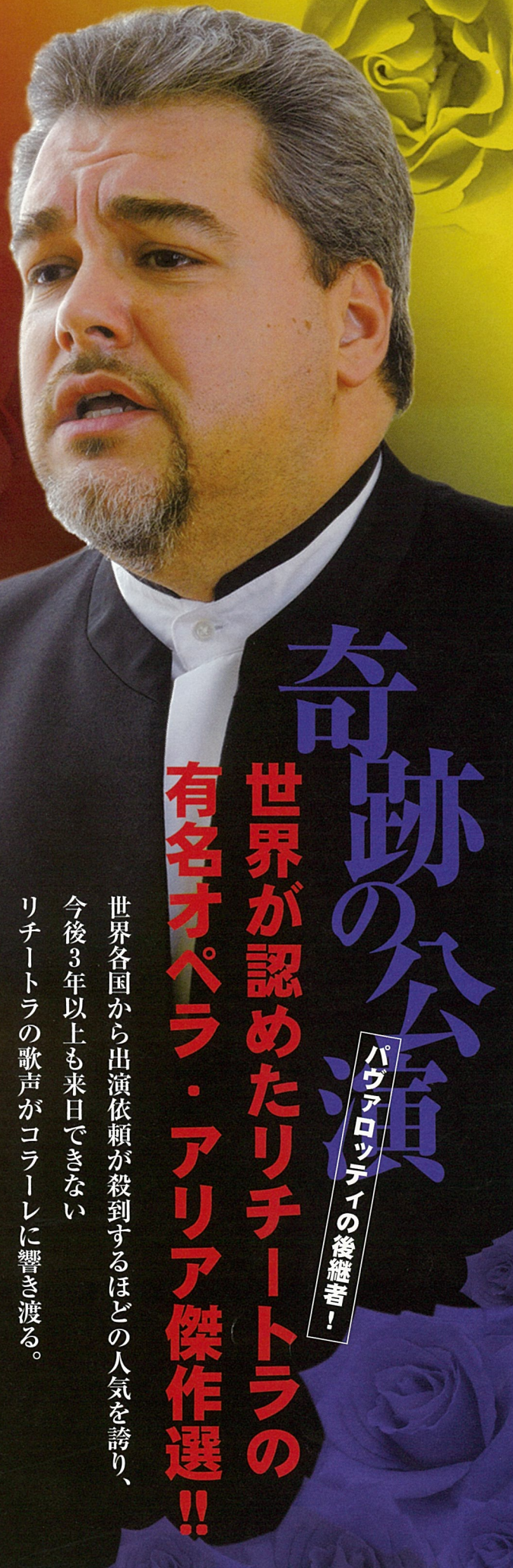
新黒部市誕生記念

# Salvatore

## サルヴァトーレ・リチートラ

### テノール リサイタル

# Licitra



# 奇跡の公演

パヴァロッティの後継者!

世界が認めたりチートラの有名オペラ・アリア傑作選!!

世界各国から出演依頼が殺到するほどの人気を誇り、今後3年以上も来日できないリチートラの歌声がコラーレに響き渡る。

2006 11月19日(日) 開場 14:30  
開演 15:00

黒部市国際文化センター コラーレ

[全席指定] 一般 8,000円  
高校生以下 2,000円 (コラーレのみで発売)

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 5歳未満のお子様のお入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にご連絡ください。

主 催：財団法人黒部市国際文化センター  
 共 催：北日本放送 北日本新聞社  
 後 援：黒部市 黒部市教育委員会 イタリア大使館 テレビ新潟放送網  
 富山県合唱連盟 黒部で第九を歌う会  
 協 力：J.A.L. 株式会社ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル  
 企画制作：Pacific Music Enterprises Inc. 株式会社インタースペース

#### [プレイガイド]

黒部市 コラーレ 0765-57-1201 / メルシー 0765-54-2221  
 魚津市 魚津サンプラザ 0765-24-3030  
 入善町 コスモホール 0765-72-1105 / コスモ 21 0765-74-9100  
 朝日町 アスカ 0765-82-2000  
 滑川市 サン・アビリティーズ 076-475-3342  
 富山市 インフォマート[市民プラザ] 076-491-0110 [CIC駅前店] 076-444-7013  
 アルブラザ富山(ファボーレ内) 076-466-1828  
 高岡市 高岡市生涯学習センター 3F 0766-20-1800

出 演 サルヴァトーレ・リチートラ(テノール) Salvatore Licitra  
 ウォーレン・ジョーンズ(ピアノ) Warren Jones

プログラム ヴェルディ：「アイーダ」より 清きアイーダ  
 ヴェルディ：「仮面舞踏会」より 永久に君を失えば  
 ブッチーニ：「トスカ」より 星は光りぬ  
 ブッチーニ：「トゥーランドット」より 誰も寝てはならぬ  
 ジョルダノ：「アンドレア・シェニエ」より 五月の美しい日のように  
 イタリア民謡：オ・ソレ・ミオ わすれな草 他  
 ※都合により曲目が変更になる場合がございます

# 貴方は人の声に 心を震わせた事がありますか？

「テリー！ 悪い事は言わない。絶対損はしないからニューヨークまで飛んで来ないか？」

今から3年前、長年の友人で、1987年のドミンゴ・日本公演以来、専属指揮者として一緒に仕事をして来たユージン・コーンからの電話を受け、ニューヨークへ飛んだ私は、翌日のセントラル・パーク開園150周年を祝う特設会場での屋外コンサートで、初めての新人テノールの声に接する事になるのです。

実はこの時の公演は、リチートラより先に同じ新人テノールとして既にその名前を認知されはじめていたマルセロ・アルヴァレスとのデュオ・コンサートで、当日会場に集まっていた数千人の観客の大部分は、むしろアルヴァレスの方に注目をしていたのです。

恥ずかしながら、いまだアルヴァレスの事を良く知らなかった私は、「運命の力」の序曲、アルヴァレスの唄ったラ・ボエームの「冷たい手を」を、何とは無しに聴き流していました（ドミンゴでのこの曲を聴き慣れていた私にとっては仕方の無い事だったかも知れませんが……）。ですが、続いてステージに立った童顔の若者の発する切り裂く様に鋭い音を耳にした瞬間、得も言われぬ衝撃に襲われたのです。舞台上でタクトを振っているユージンの言った意味が良くわかりました。屋外ですから当然マイクは使っています。が、最前列に座っている私には、この若者のナマの音がガンガンと身体に伝わってくるのです。この時に唄った彼の最初の曲は、パヴァロッティの十八番である、トゥーランドットの「誰も寝てはならぬ」だったのですが、声の張りといい、鋭さといい、聴く人の心に響くようなアプローチといい、私は直感的に「パヴァロッティの後継者は彼しかいない！」と自分自身で納得したのでした。

ポスト3大テノールを話題にして久しくなりますが、ことパヴァロッティに関して言えば、リチートラを置いて他には絶対ないと断言できます。

11月19日コラーレのステージで、私が3年前にニューヨークで受けた同じ驚きと感動を、今度は皆様方自身の目と耳で、是非味わっていただければと願っております。

三大テノール・プロデューサー 寺島 忠男

## サルヴァトーレ・リチートラ (テノール)

1968年スイス、ベルン生まれ。89年に声楽の勉強をはじめ。バルマ王立歌劇場のヴェルディ音楽院に入学、その後シエナで学ぶ。98年1月、バルマ王立歌劇場における「仮面舞踏会」でオペラ・デビュー。同年アリーナ・ディ・ヴェローナに出演、大成功を収める。98～99年シーズン、オペラの殿堂ミラノ・スカラ座で、リカルド・ムーティ指揮によるヴェルディ「運命の力」でドン・アルヴァーロを歌う。それ以降、ムーティはリチートラの才能を高く評価し、ヴェルディ・イヤーの幕開けを飾る2000年12月のスカラ座シーズン・オープニングでは、「トロヴァトーレ」の主演マンリーコに起用した。その後、「トスカ」「アイダ」「マクベス」など、総帥ムーティの期待に応えるように数多くの主演に挑戦、瞬く間にイタリア・オペラの最高峰スカラ座の常連となった。

しかしリチートラが一躍ブレイクしたのは、パヴァロッティが歌うことで注目を集めていたメトロポリタン歌劇場の2001～02年シーズン最終公演「トスカ」であった。パヴァロッティの体調不良の為、万が一に備えた最高責任者ヴォルビーの指名を受け、ミラノから呼ばれて待機していたリチートラに「すぐに着替えてくれ」という電話が入ったのは、特別ガラ最終日の開演30分前であった。満席のメットに加えて劇場前に設置された巨大モニターを通して、これが最後かも知れないパヴァロッティを見るために集まった数千人の聴衆は、彼のキャンセルに落胆したはずなのだが、最後の幕が降りた瞬間、人々は33才のこの新進テノールをスタンディング・オベーションと喝采の嵐で包み込んだのである。

以後、ヨーロッパ中の主要歌劇場での出演が続き、現在に至っている。日本では2000・2003年にスカラ座公演、2005年にナポリ・サン・カルロ歌劇場公演で来日。ソロ・コンサートでは今回が4回目の来日となる。

